

### 兼六土地建物株式会社 様



### 兼六土地建物株式会社

#### <兼六土地建物株式会社について>

西東京を中心とした中央線・京王線・西武線の沿線エリアで、分譲住宅、分譲マンションの企画・販売、注文住宅を手がける。独自の手法によりセミオーダーに近い仕上がりを実現している分譲住宅は、競争の激しい戸建て住宅分野で、顧客から高く評価されている。



(写真右から 2 人目：システム部課長 梅本氏。写真左から 2 人目：同部係長 大久保氏。写真真中：同部 稲吉氏)

写真左端：オーシャンブリッジ 営業部 亀谷、右端：同部 佐藤

### 他社製ツールと比較すると NXPowerLite は 10 倍以上のスピードで軽量化。ハイスピード処理でも高画質はキープしたままです。

分譲住宅や注文住宅を手がける兼六土地建物株式会社では、顧客満足度の向上や商品開発を促進するために写真やプレゼン資料を充実させています。資料を活用する上で意識せざるを得ないストレージニーズに対する考え方と、NXPowerLite 導入のメリットと効果について、兼六土地建物株式会社の梅本光夫氏(写真右から 2 人目)と大久保正也氏(写真左から 2 人目)にお話をうかがいました。

### 物件写真や図面資料は、将来のイメージを膨らますために充足させていくことが必須。

#### — 業界内で IT はどのような場面で活用されているのでしょうか。

不動産業界は図面や契約書など、ペーパーレスとは程遠い、紙が中心の業界です。各種書類は一定期間、保存しておく必要もあります。しかし、デジタル社会は言わずと知れて訪れていました。不動産業界も、当社も、最初に影響したのは物件の写真でしょう。例えばリフォームの場合では、検討から改修過程や改修後も、多数の資料を確認し、従来の情報源だった改修前後の図面や写真だけでは情報が不足しますので、社員それぞれが物件を撮影して、お客様にお見せしたり、PowerPoint ファイルに貼り付けて提案資料に使用したりしています。

また、当社では 2014 年 4 月から営業全員に iPad を導入し、お客様に説明する資料も電子化していきました。お客様に物件を紹介するときは、様々な角度から撮影した室内の写真をお見せしています。iPad を活用することで、重い紙資料の持ち歩きから解放されただけでなく、お客様に住居のより具体的なイメージをもっといただけますので、これまで以上に仕事をすすめるうえで画像を利用する機会が増えています。

### iPad で簡単に高画質な写真が手に入るようになり、将来を見越したストレージ逼迫対策を早くから意識。

#### — どのようなきっかけで、ストレージ不足を意識し始めたのでしょうか。

最近では、安価なデジタルカメラでも高画質な写真を撮影できます。写真 1 枚あたりのファイルサイズも数 MB と非常に大きくなりました。また、iPad やスマートフォンでも高画質写真が手軽に撮影できるようになったこともあり、当社でも検討資料用に写真を撮影する機会が多く、枚数も増加していました。しかし一度撮影した写真は今後使用するかわからないが念のため取っておくといったことも重なり、ファイルサイズに掛けあわせて保存先のストレージの容量はみるみるうちに大きくなっていったのです。

同時にバックアップにかかる時間やコストの増加も目立つようになってきました。実際に、クォータのストレージ容量の不足を警告するアラートも頻繁に発生していました。

現場で使用する画像は、カタログで使用する画像とは異なり、ある程度の画質で十分なのですが、「気軽に撮影できてしまう」高画質な画像が、将来的にストレージを逼迫することでコスト問題を引き起こすことを、最初から懸念していました。

#### — 先駆けて何か対策を実施されたのでしょうか。

保存する画像を厳選する、圧縮してファイルサイズを小さくする、重複ファイルは削除するなどの運用面でもできる対策も色々試みました。しかし現場での対応は非常に手間がかかってしまい、期待した成果はあまり得られませんでした。このままでは早晚、ストレージコストの増加が

問題になると気づき、早めに何かシステムを導入するなどの対応をする必要があると考えたのです。



“ストレージコストが早晚問題になることは分かっていたので、余裕を持って対応したいと考えていました。”(梅本氏)

### 複数の軽量化ツールの検討に比較テストを実施。

### ハイスピード処理で高画質をキープでき、ユーザーへの負担の少なさが決め手に。

#### — どのような経緯で、軽量化ツールの導入の検討が始まったのでしょうか。

きっかけは展示会です。画質や解像度を落とさずに、ファイルを「軽量化」するツールの存在をはじめで知りました。候補となった、複数の製品のスペックを比較して、最終的に 2 製品を試用してみることにになりました。

#### — 実際にどのような比較テストを行ったのでしょうか。

まず、軽量化のスピードテストを実施しました。

